

## 博物館展示論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと。)

1. ( ) に該当する適切な用語を下記の語群から選択し、文を完成させなさい。  
(各3点)

博物館の展示事業では、多くの人々に周知を図る広報活動は重要である。紙媒体を用いないインターネット上の広報が普及してきたが、(a ) (b ) といった印刷物は現在も有効である。もっとも汎用性の高い(a ) のサイズはA4である。

2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、野老朝雄氏がデザインした(c ) が採用されたが、1964年開催された東京オリンピックにおいて(d ) は(b ) やシンボルマークをデザインした。シンボルマークを有する博物館は、広報活動をはじめ展示事業においてひろく、シンボルマークを活用する事例がみられる。

ポスター	チラシ	はがき	エンブレム	ゼッケン
亀倉雄策	田中一光	大高猛		

2. ( ) に該当する適切なことばを記入し、文を完成させなさい。(各4点)  
また、以下の問いに答えよ。(各6点)

博物館展示の性格は大きく分類すると(ア ) と(イ ) がある。(ア ) は館所蔵の資料・作品を展示し、所蔵品数がゆたかであれば充実した展示が展開できる。一方(イ ) は館所蔵品に限らず、展示テーマの内容に応じて外部から資料・作品を借用する場合があるため期間を限定する場合が通常である。規模が大きい博物館では(ア ) と(イ ) を同時に開催する場合もある。

展示の資料・作品には、名称、所蔵先などが書かれた(ウ ) と呼ばれるプレー

ト状のものなどが付けられる。展示品一点ごとに付く場合もあれば、いくつかの展示品をまとめてなされる場合もあるが、館のコンセプト、または(イ )のテーマによって、デザイン上の工夫が施されるが、概して視覚的にコンパクトにおさまるよう望まれる。

近年、日本を訪れる外国人旅行者は増加傾向にあり、博物館においても外国人来館者への対応が求められており、(ウ )の多言語表記はそのひとつである。館内の施設案内において「絵文字」ともよばれる(エ )の表示は有効である。

- (1) (ウ) に付記される、資料・作品の「名称、所蔵先」以外であてはまるものを挙げよ。
- (2) 外国人来館者への対応として、「(ウ )の多言語表記」以外であてはまるものを挙げよ。

3. 展示と陳列の2つの用語は、基本的には同義であるが、それぞれの意味を取りまとめて100字程度で述べよ。(10点)

4. 1977年国立民族学博物館が開館して展示は、学問的に体系化され1982年に展示学会が発足し、初代会長には、国立民族学博物館館長の梅棹忠夫が就任した。この団体の設立の目的を100字程度で述べよ。(10点)

5. 構想・基本計画から施工・工事までの流れの下記空欄①～②を埋めて、その4つの工程の中より 2つを選択した上で、学芸員の役割を含めその内容をそれぞれ150字程度で述べよ。(記述部分は各2点、論述部分は各18点)

構想・基本計画、( ① )、( ② )、施工・工事